

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400793		
法人名	有限会社かがやき		
事業所名	グループホーム「かがやき」1階		
所在地	愛知県名古屋市長区有松南415-1		
自己評価作成日	平成21年11月15日	評価結果市町村受理日	平成22年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町1丁目24番地 S101号室		
訪問調査日	平成21年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昼間の活動の充実は、夜の快眠を保障する。メリハリのある生活で「かがやき」のある生活を作りだす。を合言葉にして、専門家の先生のご協力を得て、合唱の時間や国語の時間、書道の時間などの「昼間の活動」の充実を図っています。また、凡そ半年に1回の「和太鼓演奏」や「手品」腹話術「お茶の時間」などアカデミックな時間の確保に努力をしてくれています。ホームの主人公は入居者の皆様、職員は、黒子に徹した日常生活を送っていただけるように努力しています。ホームの主人公は入居者の皆様を實踐すべく、食事の準備から掃除、洗濯など入居様のお一人ひとりの状況に合わせた取組に心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「かがやき」は、静かな住宅地に自然と地域に溶け込んでいるホームである。代表者は、人間関係を大切にされ、多くの協力者をホームに招いて、毎月のスケジュール(国語、書道、合唱、踊り、ちぎり絵等)を計画され、ホームに入居する一人ひとりに、生きがいを持って生活してほしいと願っている。利用者は、訪問者に対しても、普段家でやっていたように、さりげなく、お茶のもてなしをしてくれる。「ここは極楽だよ。」と言われ、安心された表情が伺えた。管理者、職員、家族一同で、「ホーム開設5周年記念のDVD」を作成するなど、様々な取り組みをされている楽しさと、かがやきにあふれたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、目標を玄関、職員室等に掲示して、職員会議等の機会を設け、理念、目標について話し合っている。	「自分らしくかがやいて生きるを」を定められ、一人ひとりが一番という思いのもと、管理者、職員が職員会議等の機会を設け、日々生活するなかで、具体化できるよう意識して取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、毎月「かがやきニュース」を配布している。また、毎朝の散歩や地域の子どもたちとともに「クリスマス会」や「ひなまつり」を計画、実行している。	町内会に加入し、ホーム便り「かがやきニュース」を配布し、地域との交流に努力している。地域の子どもたちのつながりを大事にして、「クリスマス会」や「ひなまつり」を行い、父兄にもホームへの理解、協力をお願いし、交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営委員会やかがやきニュース、そして毎朝の散歩等でホームの生活の紹介をしている。また、管理者が、地域包括主催の認知症の講座の講師を務め、ホームの紹介をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会で出された課題や問題点は、早急に対応するために、職員会議等で報告、話し合いをし、解決にむけて努力している。	会議は3か月ごとに開催し、家族にも出席していただいている。災害の時など、地域の方と協力できるように、ホームの理解、つながりを深めるなど、課題や問題点などに早急に対応、解決に向けて努力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月かがやきニュース等を配布し、ホームの実情を報告するように努力している。	毎月「かがやきニュース」を持って、ホームの現状や取り組みを報告している。さらに、日常的にもホームの実情報告をし、市町村担当者と連絡を取り合い、サービスの向上を目指している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にかかわる「研修会」に職員を参加させたり、防犯上の理由で夜間以外は何故鍵をかけていないか、などを職員会議等で話し合っている。	身体拘束をしないケアを基本とし、常に安全に過ごせるように、職員会議で話し合い、家族にも相談、説明されている。基本は夜のみ施錠であり、鍵をかけずに安全に過せる工夫を職員で話し合い、家族の納得の上、施錠しない取り組みを続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の皆さんの尊厳を守り、いかなる虐待もおこなわないよう職員会議等で話し合いをしている。怪我や傷ができていた場合は、記録し、申し送りを徹底するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、「成年後見制度」「権利擁護」などの研修に参加する機会が少なく、今後の課題である。現実に上記の制度を利用している入居者様もお見えになり、今後の大きな課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族やご本人に対し重要事項の説明はもとより、利用料や医療体制などの説明を行なっている。後日であっても気軽に、質問や疑問を受けられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員会にご家族の参加を、積極的に呼びかけたり、家族会の充実、発展を役員さんとともに図って、ホームの運営に対するご意見を反映できるように努めている。	家族より、「職員の名前と顔が結びつかない。」との意見が出され、顔写真を一覧表を掲示した。運営推進会議に家族の参加を積極的に呼びかけ、意見、要望等を聴く場を設けており、運営に反映できる取り組みを続けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前に会議のレジュメを配布し、議題の追加等も呼びかけている。管理会議、フロアー会議、ケース検討会議を、毎月開催しており、職員の意見や提案を受け止めるよう努力している。	毎月開催している管理会議、フロアー会議、ケース検討会議を通し、現場の意見が出されている。職員からの意見や提案について、代表者及び管理者は、耳を傾け、意見として受け止めるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の相談等に応じ、働きやすい職場環境、条件の整備に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケース検討会議に、外部の講師を招いたり、職員間での学習会や外部での研修会に参加するなどの努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が「認知症介護指導者」として 各種の研修に参加したり、国、県、市のグループホーム協議会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全体で情報を共有し、よりよい状況になるように、ご本人、ご家族との「安心を確保」できるための話し合いの時間を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は特に、ご本人はもとより、ご家族との連絡を密に取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、「体験宿泊」も取り入れている。卒直な話し合いができる機会を設け、必要な対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望や要望を取り入れた生活を支援するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、何でも積極的に相談し、共に生活を作り出す努力をしている。そのためにもご家族に気軽にいつでもホームにこられる環境づくり(雰囲気作り)に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を通して、馴染みの関係や場所や人間関係が途切れないように支援できるように努めている。	以前住んでいた近所の方の面会や馴染みの理容院、墓参り、「かがやきニュース」を届けたりなどしている。家族の関わりも大切にして、どんなに些細なことも電話連絡するようにし、人間関係が途切れないように努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間での申し送り、記録をし、その把握に努め利用様(入居者様)同士が関わりあえる環境を作る努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族にボランティアに来ていただくなど、退所後の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に耳を傾け、ご本人、ご家族と相談し、また、職員間でも話しあい、その思いや意向の把握に努力している。	本人、家族とも話し合いながら一人ひとり意向に耳を傾け、行動や表情なども見て、その方の意向に沿うように努めている。また、職員間でも話し合い、一人ひとりの要望や思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーやご家族、ご本人からこれまでの生活歴や暮らし方をお伺いし、職員にもその情報を提供し、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックを毎日実施し、記録や申し送りを行い、職員全体で、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族がわかりやすい、そして何よりも職員がわかりやすく、活用しやすいアセスメント表を使用し、それぞれの人たちの思いが、反映されるような介護計画、モニタリングを目指している。	本人、家族とも話し合い、3か月に1度の介護計画の見直しを基本とし、毎月のケース会議やフロア会議等で検討している。変化があれば、すぐに見直すようにして、本人、家族の思いが反映される介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画やモニタリングに反映されるように、業務日誌、ケース記録をわかりやすく分類し、記録するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に対応し、柔軟な支援やサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緑区社会福祉協議会に加盟し、行事等にも積極的に参加している。また、地域の美容院を利用するなど、地域資源を活用して、暮らしを楽しむように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や電話相談などができる、かかりつけ医でもある有松診療所との関係を大切にし、入居者の皆様が適切な医療が受けられるように努めている。	かかりつけ医による月2回の往診、緊急時や夜間緊急時等、協力医療機関との関係を大切にしている。また、週1回訪問看護にも来てもらっている他、時間外でも電話相談に応じてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	有松診療所の看護師さんより、訪問看護を週1回毎週火曜日に行なってもらっている。また、必要に応じて診療時間以外にも電話相談に応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は状態を細かく伝え、退院時はカンファレンスを行い、退院後の生活の計画をたてるなど、医療機関との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関、ご家族との話し合いを積み重ね、職員間でも情報や方向性を共有する努力をしている。	過去にターミナルケアの経験があり、医師や訪問看護と連携を密にして、家族の意向に基づき、話し合いを続けながら方針を共有するように努めている。今後に向け、ターミナルを想定した看取りの研修を行う予定がある。	本人と家族の思いは、その状況によって変化することもある。また、重度化してくると職員にも不安な気持ちが出てくる。今後、ホームとして、ターミナルを想定した研修を行う考えもあり、その実現に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が主催する「救急法」の学習会に毎年参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、様々なパターンを想定して避難訓練を行い、終了後には、職員、入居者の皆さんで反省会を行い、災害について話し合っている。また、地域の子どもたちを招待して「クリスマス会」等を開催している。	年2回、避難訓練を行っている。9月の訓練では、家族会の緊急連絡網のリハーサルを行い、反省会を行った。災害について話し合っている。また、非常時には相互で協力ができるように、地域の方との関係を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念をもとに、人生の先輩としての対応(丁寧な言葉づかい等)について、日常の中でも、職員間で確認している。	職員は、日常生活の中で、さりげない声かけや、「丁寧な言葉使い、丁寧な態度」を心掛けるようにしている。職員間で、プライバシーの確保について確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「ホームの主人公は入居者の皆様」を合言葉に、献立会議や予定表の作成会議などを、入居者の皆様とともに開催し、作成している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切に、入居者様個人の意見を取り入れた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝には、整髪料を使い髪形を整え、服も自分で選んでいただけるよう声かけに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの「力」を支援しながら一緒に家事を行ない、献立の要望は毎週の献立会議に反映できるように努めている。	食事の準備、片付けなど、利用者と職員が一緒になって、一人ひとりのできること、「力」を活かしながら、家事を行っている。週2回の買い物や献立会議で、一人ひとりの好みやメニューの要望を反映できるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については、毎食記録をつけており、水分量など体調に併せて飲み物も変えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝時には一人ひとりに応じた口腔ケアを行なっているが、毎食後の口腔ケアは、現在、ホームの課題となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに応じて、トイレで排泄できるように声かけ、誘導を行なうよう努めている。	チェック表などで一人ひとりの排泄パターンに合わせ、全職員がその方の排泄のサインを把握し、誘導などにより、トイレでの排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分などに注意し、毎日の散歩など外出するように努め、医療との連携により、「薬」等での治療や予防にも心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕食後の入浴が、現在のホームでの課題です。ホームでの入浴時間内という規制があるが、本人の入浴したい時間に配慮して遅い時間の入浴を考慮するなどの努力をしている。	職員の思いとしては、夕食後の入浴を考えているが、現状は午後入浴になっている。今後、遅い時間の希望ができたことも考え、一人ひとりの希望に近づける為の取り組みや体制を検討している。	現状、車椅子の方については、シャワー浴となっている。職員は「湯船につかってほしい」と思いを持っておられ、入浴介助における工夫や体制について、どこまで可能か検討を続けられたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の活動の充実が、安眠を保障するとの理念、目標を基礎としながら、お一人ひとりの状況に合わせて、昼寝をするなど、その日の状況に合わせた支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いのないよに3重のチェック体制を作っている。医療ファイルを作り、お一人ずつの処方箋が入っている。変化については記録を行ない、医療機関(主治医、看護師)とともに医療ファイルの充実に努め、職員間の情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の散歩等の外出や体操や家事全般など、入居者様、お一人ひとりの要望にあわせ、気分転換できる時間を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の予定表を、入居者の皆さん共に作って、それに基づいて、一日の行動(外出)を実施しているが、入居者様の、その日の状況に合わせて、変更して、その日の気分に合わせて外出も行なっている。	日常は近隣の喫茶店や買物に週2~3回出かけている。散歩は毎日、その日の気分合った外出を支援している。また、動物園にも行き、その際には、大学の学生や家族の協力・応援もあり、有意義な時間を過ごすことができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームとして、お金を預かって管理をするということはしていない。ご家族と入居者様との関係で管理しているが、買物等の場合は、お一人ひとりの状況に合わせて、ご自身で払っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話の使用等は、ご本人の要望、希望にあわせた支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や、各フロアは、入居者の皆さんの手づくりの作品を飾ったりして生活感や季節感のある空間づくりに努めている。	手作りの作品やフラダンスに参加されたときの写真などをホーム内に展示し、居室からは庭が見え、季節の花や木、玉ネギなどを植え、生活や季節感を味わえるよう工夫し、居心地よい空間を作るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の応接イスなどの配置や皆さんが座る場所を決めるなど、留意しながら、皆さんが安心して、すごしやすい場所になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたものを持ってきてもらい使用していただいている。	使い慣れた家具や雑貨、ベッド、仏壇、家族写真など、居心地良く過ごせるよう工夫し支援している。居室の入口に、ほうき、ちりとり等がかけてあり、自分の部屋の掃除をしている方もいる。各居室に一人ひとりの個性が感じられる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館手すりが付いている。また、トイレは貼紙等をして、入居者の皆さんにとってわかりやすいものになっている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム「かがやき」

目標達成計画

作成日: 平成 22年 2月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		ターミナル、重度化への課題	・ターミナル、重度化への課題は、①職員研修(病気や身体介護も含めて)②不安点を出し合い1つずつ解決できるようにする。③医療面のサポート体制、職員連絡体制の再確認を行う。		12ヶ月
2		入浴の問題について	・機会浴等先進的な入浴介助をしている施設を訪問し、その経験を学ぶ。 ・福祉用具の検討等を進める。		12ヶ月
3		地域の子供たちを招待した取り組みを更に発展させる工夫は？	・地域とのかかわり、貢献の為、かがやきもお世話になっている「青パト」の運営資金の一助として行われている「アルミ缶収集ステーション」の取り組みを進める。 ・地域の子どもたちとの実行委員会の取り組みを「地道にコツコツ」と更に発展される。 ・地域の子どもたちが、日常的にかがやきに遊びにこれるように、定期的に、行事はなくても、「開放日」をつくる。		12ヶ月
4		運営推進委員会を、年6回開催するために、国語や書道の時間、また、半年に1回の文化的取り組みを、推進委員やご家族、地域の人たちに、知ってもらう機会として行く。	・本格的な会議、話し合いの場は、年4回だが、あとの2回は、かがやきの「文化的」な取り組みを、運営推進委員会の関係者にご理解いただく機会を作る。		12ヶ月